

荒川区教育委員会
教育長 川・祐弘 様

荒川区立第七中学校
校長 宮 沢 亨

公印

学校関係者評価報告書

平成 23 年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

記

評価項目 1 「学校全体の様子」

- ・ 学校の目指す姿を校内外の掲示物などで知らせており、大変好感がもてる。
- ・ 部活動を見学したが、あいさつをよくしてくれるし、素直で元気よく学校生活をしている様子が見える。
- ・ 通学途中の七中生をよく見るが、標準服を崩して着ている生徒がいない。
- ・ 3 年生全員に校長先生が面接練習をし、必要な生徒には繰り返し練習をしてくれた。このことに代表されるように、先生方が、生徒とていねいに関わってきてくれたことで、学校への信頼感が育まれてきた。
- ・ 静かに集中して授業に取り組ませたり、先生と生徒の和やかなやりとりをしたり、指導にメリハリがあってよい

評価項目 2 「学力向上の取組」

- ・ 先生は、生徒と人間同士のふれあいをもつと同時に学習指導のプロであってほしい。
- ・ 学力をもっとつけてほしい。先生たちにもっと危機感をもってほしい。
- ・ 宿題の出し方、チェックの仕方を工夫して家庭学習の習慣をつけてほしい。
- ・ 土曜スクールや補充教室など学力を補う取組をもっとやってほしい。
- ・ 朝読書や図書館の開室に取り組んでいることは評価できるが、もっと読ませる工夫をしてほしい。

評価項目 3 「社会性・人間性の育成」

- ・ 運動会、合唱コンクールの取組で生徒が主体的に課題を解決し、高い目標を達成していた。
- ・ リーダーが進んで集団をまとめ、全体が成長していく様子が 3 年生の合唱コンクールをおして感じられた。1、2 年生によい影響があったので、さらに高めてほしい。

評価項目4「保護者・地域との連携」

- ・ 5年前に比べて大変よい学校になった。地域、家庭が学校に携わる、関わることができたからだと思う。
- ・ 七中は、親の発言や地域でのあいさつが学校を支えている。
- ・ 七中は、親同士のコミュニケーションが大変よい。だから、大人が子供達に声をかけることができ、よい学校となっている。

評価項目5「特色ある教育活動」

- ・ ふれあい給食の際、給食のおかわりを上手に分け合っていた。集団のルールを守り、相手を尊重する態度をみることができた。

評価結果を受けての学校の改善方針

- 2「児童・生徒の様子」3「基本的生活習慣」について
→基本的な生活習慣が身についた生徒が多く成果を上げているが、さらに規範意識を育てる生活指導を充実させ、人権を尊重した教育を進める。
- 5「安全・安心」19「地域への参加」について
→評価がやや低いので、安全・防災に関する指導をとおして、防災意識を高め、地域の防災訓練、行事に生徒を積極的に参加させる。
- 7「個に応じた指導」8「学習習慣」
→「学習習慣」の評価がやや低くなっているため、授業改善を進め、よりわかる授業を展開する。習熟度別少人数授業やチームティーチングを活用した個に応じたきめ細かな指導を行う。
→TAを活用した補充教室や考査前の質問教室を実施、学力補充を行い、達成感を味わわせ、学習意欲を高める。
- 16「情報発信」
→学校日より、校内外の掲示物、まごころギャラリー等で学校の様子を知らせるようになったと評価されたが、ホームページや学校メールシステムをさらに活用し、学校の教育活動を広く知らせていく。
- 25「地域連携」
→地域、保護者と学校が良好な関係にあることが本校のよさであるとともに学校が安定して運営できる基盤となっている。この基盤をさらに強固にするようPTA、同窓会、父親の会等とさらに連携を深める。